

我が国における大型クルーズ客船の寄港実態に関する基礎的分析

金沢大学	学生会員	○松田 耕司
金沢大学	正会員	藤生 慎
金沢大学	正会員	中山 晶一朗
金沢大学	フェロー	高山 純一

1. はじめに

近年、世界中でクルーズ船の寄港回数が増加している。それに伴い、日本へのクルーズ船の寄港回数も増加しており、日本を訪れる外国人旅行客が増加している。外国船社が運航するクルーズ船の我が国港湾への寄港回数は、中国からのクルーズ船の寄港増加などにより過去最高の 965 回となった¹⁾。

日本では今後、クルーズ船の寄港回数は堅調に推移することが期待され、クルーズ観光旅客が観光業に与える影響は決して無視できない状況となっている。そのため、クルーズ観光の振興のためにもまずはクルーズ観光市場の実態把握が必須である。そこで、本研究はまず大型クルーズ客船の寄港実態の把握を目的とする。また、旅客の満足度はクルーズ船社の寄港地選定要因に少なからず関係していると考えられるため、寄港パターンの分析も行いクルーズ船社の寄港地選定要因を明らかにしていく必要がある。

2. 既往研究

クルーズ旅客の観光行動に関する研究では、藤生ら^{2) 3) 4)}によって、平成 26 年度に金沢港に来航したクルーズ乗船客を対象として、アンケート調査や GPS ロガー・小型カメラを用いた調査がされており、それらの分析が行われている。また、クルーズ旅客のリピーター観光要因の分析や港と観光地中心を結ぶシャトルバスの運賃モデルの推定が行われている。しかし、旅客といった需要側視点の研究が多くされているが、クルーズ船社など供給側の研究はほとんどされていない。

したがって本研究では、需要側視点ではなく、クルーズ観光の供給側の視点でクルーズ市場の実態把握を行い、寄港パターンの分析も行いクルーズ船社の寄港地選定要因を明らかにする。

3. 我が国港湾へのクルーズ船の寄港状況

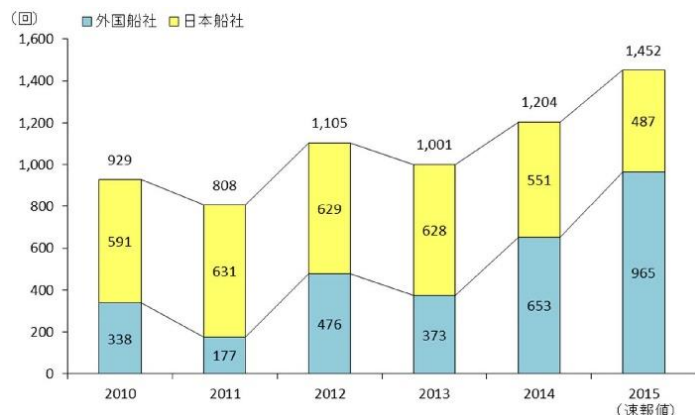


図-1 我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数 (1)

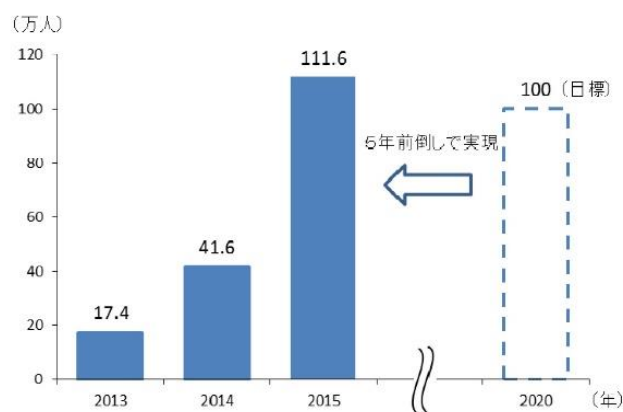


図-2 クルーズ船による外国人入国者数 (1)

キーワード クルーズ客船、寄港実態、港湾計画

連絡先 〒920-1192 石川県金沢市角間町金沢大学理工学域環境デザイン学系 2C719 Tel.076-234-4914

国土交通省の調査によると、我が国港湾への外航クルーズ船の寄港回数（図-1）は2013年に373回、2014年に653回、2015年には965回と増加傾向にある。

また、クルーズ船による外国人入国者数（図-2）も2013年に17.4万人、2014年に41.6万人で、2015年には2.7倍の111.6万人となった。2020年に100万人を目指していたが、5年前倒しで実現することとなった。2015年における外航クルーズ船の寄港回数が多い上位10港について図-3に示す。港湾別にみると、外航クルーズ船の寄港回数が最も多かった港は博多港であり245回であった。その次に128回の長崎港が続く。

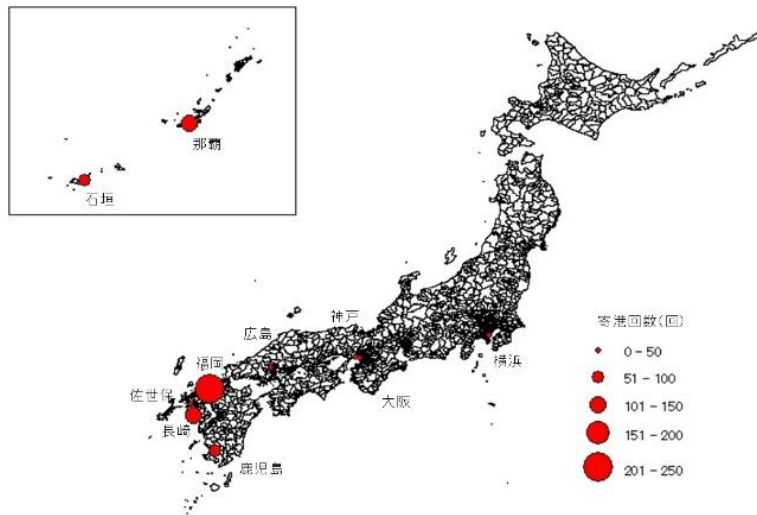


図-3 外航クルーズ船の2015年における寄港回数⁽¹⁾

4. まとめと今後の課題

3章で述べたように、我が国港湾への外航クルーズ船の寄港回数は2015年に965回であり、最も多かった港は博多港であり245回であったことや、2015年のクルーズ船による外国人入国者数は111.6万人であったなど日本へのクルーズ船の寄港回数は増加しており、日本を訪れる外国人旅行者が増加している。しかし、寄港回数は見えているが、寄港パターンの分析が行われておらず今後の課題である。

また、クルーズ船社は旅客にアンケートを行い、寄港地の満足度を計測しているため、旅客の満足度はクルーズ船社の寄港地選定要因に少なからず関係していると考えられる。そのため、寄港パターンの分析も行うことによりクルーズ船社の寄港地選定要因を明らかにしていく。

参考文献

- 1) 国土交通省 2015年のクルーズ船の寄港実績等について（速報値）～訪日クルーズ旅客数は、前年比2.7倍の112万人となりました～http://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000130.html 平成28年2月20日閲覧
- 2) 藤生ら：クルーズ旅客のリピーター観光要因の分析，日本クルーズ&フェリー学会論文集（2015）
- 3) 藤生ら：ライフログカメラ・GPSロガーを用いた観光行動分析，日本クルーズ&フェリー学会論文集（2015）
- 4) 藤生ら：港と観光地中心部を結ぶシャトルバスの運賃モデルの推定，日本クルーズ&フェリー学会論文集（2015）